



## CHAPTER 4

# NAM CLI コマンド metric export host ~ show certificate request

---

この章では、次の NAM CLI コマンドについて説明します。

- [metric export host](#)
- [metric export non-waas traffic](#)
- [monitor nbar](#)
- [monitor protocol encapsulation](#)
- [monitor rtp-stream enable](#)
- [monitor rtp-stream filter](#)
- [monitor rtp-stream threshold](#)
- [monitor urlcollection](#)
- [monitor urlfilter](#)
- [netflow input port](#)
- [nslookup](#)
- [password](#)
- [password strong-policy](#)
- [patch](#)
- [pid-sn](#)
- [ping](#)
- [preferences](#)
- [protocol esp-null-heuristic](#)
- [reboot](#)
- [reboot -helper](#)
- [reboot - golden](#)
- [remote-storage fcoe](#)
- [remote-storage iscsi](#)
- [remote-storage sas](#)
- [rmwebusers](#)

- `show access-log`
- `show application app-id`
- `show application eng-id`
- `show application group`
- `show audit-trail`
- `show autcreate-data-source`
- `show cdb`
- `show cdp settings`
- `show certificate`
- `show certificate-request`

# metric export host

メトリック エクスポート ホストを設定するには、**metric export host** コマンドを使用します。メトリック エクスポートをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**metric export host** *ip-address* [*port*]

**no metric export**

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	外部レポート コンソールの IPv4 アドレスを指定します。
<i>port</i>	外部レポート コンソールが着信パケットをリッスンするポート (任意)。

## デフォルト

デフォルト ポートは 9995 です。

## コマンド モード

コマンド モード

## 使用上のガイドライン

ART メトリックを外部レポート コンソールにエクスポートするには、このコマンドを使用します。

## 例

次に、ART メトリックを収集するように送信元としてレポート コンソールの IP アドレスを指定した後、この設定を削除する例を示します。

```
root@nam.cisco.com# metric export 10.0.0.1 9995  
root@nam.cisco.com# no metric export
```

# metric export non-waas traffic

SPAN トラフィック（非 WAAS トラフィック）を外部レポート コンソールに送信するには、**metric export non-waas traffic** コマンドを使用します。メトリック エクスポートをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**metric export non-waas traffic**

**no metric export non-waas traffic**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

エクスポートはディセーブルです。

## コマンドモード

コマンド モード

## 使用上のガイドライン

非 WAAS（SPAN トラフィック）メトリックを外部レポート コンソールにエクスポートするには、このコマンドを使用します。

## 例

次に、非 WAAS トラフィックを外部レポート コンソールに送信した後、この設定を削除する例を示します。

```
root@nam.cisco.com# metric export non-waas traffic
root@nam.cisco.com# no metric export non-waas traffic
```

# monitor nbar

スーパーバイザ NBAR 統計情報ポーリングをイネーブルにするには、**monitor nbar** コマンドを使用します。ポーリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor nbar**

**no monitor nbar**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルトはありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 使用上のガイドライン

統計情報の収集をイネーブルにするには、NBAR-PD-MIB が存在している必要があります。NAM-3 統計情報はスーパーバイザ エンジンからポーリングされます。

## 例

次に、NBAR 統計情報ポーリングをイネーブルにする例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# monitor nbar
Successful enable nbar collection.
root@localhost.cisco.com# no monitor nbar
Successfully disable nbar collection.
```

次に、NBAR 統計情報ポーリングを表示する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# show monitor nbar
nbar collection enabled
```

# monitor protocol encapsulation

プロトコルのカプセル化を設定するには、**monitor protocol encapsulation** コマンドを使用します。プロトコルのカプセル化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor protocol encapsulation**

**no monitor protocol encapsulation**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、モニタ プロトコルのカプセル化を設定する例を示します。

```
root@nam.cisco.com# monitor protocol encapsulation
gre-ip                - encapsulation type
gtp                   - encapsulation type
ip-esp                - encapsulation type
ip-ipv4               - encapsulation type
ip-ipv6               - encapsulation type
root@nam.cisco.com# monitor protocol encapsulation
```

## 関連コマンド

[show monitor protocol encapsulation](#)

# monitor rtp-stream enable

RTP ストリーム モニタリングをイネーブルにするには、**monitor rtp-stream enable** コマンドを使用します。RTP ストリーム モニタリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor rtp-stream enable**

**no monitor rtp-stream enable**

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、RTP ストリーム モニタリングをイネーブルにする例を示します。

```
root@localhost# monitor rtp-stream enable
```

次に、RTP ストリーム モニタリングをディセーブルにする例を示します。

```
root@localhost# no monitor rtp-stream enable
```

## 関連コマンド

[monitor rtp-stream filter](#)

# monitor rtp-stream filter

RTP ストリーム フィルタリング エントリを設定するには、**monitor rtp-stream filter** コマンドを使用します。RTP ストリーム フィルタリング エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor rtp-stream filter** *source-address source-mask dest-address dest-mask*

## 構文の説明

<i>source-address</i>	フィルタリングされる RTP ストリームの送信元アドレスを指定します。
<i>source-mask</i>	フィルタリングされる RTP ストリームの送信元アドレスのサブネット マスクを指定します。
<i>dest-address</i>	フィルタリングされる RTP ストリームの宛先アドレスを指定します。
<i>dest-mask</i>	フィルタリングされる RTP ストリームのサブネット マスクを指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、RTP ストリーム フィルタリングをイネーブルにする例を示します。

```
root@localhost# monitor rtp-stream filter 1.2.3.0 255.255.255.0 4.5.0.0 255.255.0.0
```

## 関連コマンド

[metric export host](#)



# monitor rtp-stream threshold

異なる RTP ストリーム モニタリングのタイプのアラームしきい値を設定するには、**monitor rtp-stream threshold** コマンドを使用します。RTP ストリーム モニタリングのアラームしきい値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor rtp-stream threshold <key_word>
```

```
no monitor rtp-stream threshold <key_word>
```

## 構文の説明

キーワード	アクション
<b>actual-pkt-loss</b>	実際のパケット損失のパーセントしきい値を指定し、実際のパケット損失のしきい値アラームをイネーブルにします。
<b>adjusted-pkt-loss</b>	調整されたパケット損失のパーセントしきい値を指定し、調整されたパケット損失のしきい値アラームをイネーブルにします。
<b>jitter</b>	ジッタのアラームしきい値を指定し、ジッタのしきい値アラームをミリ秒単位でイネーブルにします。
<b>mos</b>	MOS スコアのしきい値を指定し、MOS スコアのアラームをイネーブルにします。
<b>soc</b>	隠蔽が行われるしきい値の秒数を指定し、SOC アラームをイネーブルにします。
<b>ssc</b>	深刻な隠蔽が行われるしきい値の秒数を指定し、SSC アラームをイネーブルにします。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての NAM プラットフォームでサポートされます。

## 例

次に、損失パケットの RTP ストリーム モニタリング用に 6 % のアラームしきい値を設定する例を示します。

```
root@NAM.cisco.com# monitor rtp-stream threshold adjusted-pkt-loss 6
Successfully set adjusted-pkt-loss alarm.
root@NAM.cisco.com#
```

# monitor urlcollection

URL 収集サブモードを開始し、URL 収集を設定するには、**monitor urlcollection** コマンドを使用します。URL 収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor urlcollection**

**no monitor urlcollection**

## 構文の説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 使用上のガイドライン

URL 収集サブモードを開始すると、次のコマンドを使用できます。

- **?** または **help** : ヘルプを表示します。**help** コマンドを参照してください。
- **cancel** : 変更を廃棄し、サブコマンドモードを終了します。**autocreate-data-source** コマンドの項を参照してください。
- **data-source nam-data-source-name** : NAM データ ソース名を指定します。
- **exit** : 変更を保存し、サブコマンドモードを終了します。**exit** コマンドを参照してください。
- **ignore** : (任意) ホスト、パス、および URL に一致する引数を設定します。
  - **ignore host** : URL 収集データを収集する場合に、URL のホスト部分を無視するか無視しないかを指定します。
  - **ignore path** : URL 収集データを収集する場合に、URL のパス部分を無視するか無視しないかを指定します。
  - **ignore url-arg** : URL 収集データを収集する場合に、URL の引数を無視するか無視しないかを指定します。
  - **ignore enable | disable** : このコマンドをイネーブルまたはディセーブルにします。
- **match-only string** : (任意) URL 内のストリングに一致する URL データだけの収集を指定します。
- **max-entry 100 | 50 | 1000** : (任意) URL 収集エントリの最大数を指定します。
- **recycle enable | disable** : URL 収集データ エントリのエージングをイネーブルまたはディセーブルにします。

NAM には、URL 収集が 1 つだけあります。収集のオーナーは、常に LocalMgr です。インデックスは常に 1 つです。

## 例

次に、URL 収集を設定する例を示します。

```
root@localhost# monitor urlcollection
```

```
Entering into subcommand mode for this command.
Type 'exit' to apply changes and come out of this mode.
Type 'cancel' to discard changes and come out of this mode.

root@localhost(sub-monitor-url-collection)# ?
? - display help
cancel - discard changes and exit from subcommand mode
data-source - specify the collection data source (*)
exit - exit from the subcommand mode
help - display help
ignore - set url collection data matching schemes
match-only - match string for url collection data
max-entry - set max number data entries of url collection
recycle - enable or disable aging of url collection data entries

(*) - denotes a mandatory field for this configuration.

root@localhost(sub-monitor-url-collection)#
```

---

**関連コマンド** [show monitor urlcollection](#)

# monitor urlfilter

URL フィルタ収集コンフィギュレーションサブコマンドモードを開始し、URL フィルタを設定するには、**monitor urlfilter** コマンドを使用します。コンフィギュレーションから URL フィルタを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor urlfilter**

**no monitor urlfilter control-index**

## 構文の説明

*control-index* 収集コントロール インデックスを指定します。範囲は 1 ~ 65535 です。

## デフォルト

制御インデックスはランダムです。

## コマンド モード

コマンド モード

## 使用上のガイドライン

モニタ URL フィルタ サブコマンド モードを開始すると、次のコマンドを使用できます。

- **?** : ヘルプを表示します。
- **cancel** : 変更を廃棄し、サブコマンド モードを終了します。
- **control-index control-index** : URL エントリのコントロール インデックスを指定します。範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトはランダムです。
- **description string** : (任意) URL フィルタの説明ストリングを指定します。
- **exit** : 変更を保存し、サブコマンド モードを終了します。exit コマンドを参照してください。
- **help** : ヘルプを表示します。
- **host-regexp** : URL のホストの正規表現を指定します。
- **path-regexp** : URL のパスの正規表現を指定します。
- **protocol-encap** : (任意) HTTP パケットのプロトコル カプセル化を指定します。

**clear configuration** コマンドは、コンフィギュレーションから URL フィルタを削除します。URL フィルタを設定するための SNMP サポートはありません。

## 例

次に、URL フィルタを設定する例を示します。

```
root@nam# monitor urlfilter
Entering into subcommand mode for this command.
Type 'exit' to come out of this mode.
Type 'cancel' to discard changes and to come out of this mode.
root@nam(sub-monitor-url-filter)# control-index 2
root@nam(sub-monitor-url-filter)# description urlfilter example
root@nam(sub-monitor-url-filter)# host-regexp www.example.com
root@nam(sub-monitor-url-filter)# protocol-encap ipv4
root@nam(sub-monitor-url-filter)# exit
Sucessfully created urlfilter entry.
root@nam# show monitor urlfilter
```

```
Description: urlfilter example
Control index:      2
Protocol encapsulation: IPv4
URL's host string:  www.example.com
URL's path string:  (not-set)
```

この URL フィルタ エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
root@nam# no monitor urlfilter 2
Successfully delete urlfilter entry.
```

---

**関連コマンド**

[show monitor urlfilter](#)

# netflow input port

NAM の入力 NetFlow UDP ポートの指定値を設定するには、**netflow input port** [*port*] コマンドを使用します。

**netflow input port** [*port*]



(注)

この CLI が使用されない場合、NAM は、着信 NDE をリッスンするようにデフォルト ポート 3000 を保持します。呼び出しが発生し、正常に完了した場合は、CLI によって新旧の UDP ポート番号が印刷されます。

## 構文の説明

*port* 入力 UDP ポート番号を指定します。有効な値は 1 ~ 65535 です。

## デフォルト

デフォルト ポートは 3000 です。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、**netflow input port** コマンドを使用する例を示します。

```
root@localhost# netflow input port 9101
NetFlow input port 3000 changed to 9101
```

# nslookup

ネーム サーバ クエリーを設定するには、**nslookup** コマンドを使用します。

**nslookup hostname [server]**

## 構文の説明

<b>hostname</b>	ネーム サーバ クエリー ホストを指定します。
<b>server</b>	(任意) 照会するネーム サーバを指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、ネーム サーバ クエリーを設定する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# nslookup www.yahoo.com
Server:      127.0.0.1
Address:    127.0.0.1#53

Non-authoritative answer:
www.yahoo.com canonical name = www.yahoo.akadns.net.
Name:   www.yahoo.akadns.net
Address:66.218.71.80
root@localhost.cisco.com#
```

# password

新しいパスワードを設定するには、**password** コマンドを使用します。

**password** *username*

---

## 構文の説明

---

*username* パスワードを変更するユーザ ログイン名を設定します。

---

---

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

## コマンドモード

コマンドモード

---

## 使用上のガイドライン

有効なユーザ名は、**root** と **guest** の 2 つだけです。

---

## 例

次に、パスワードを設定する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# password root
Changing password for user root
New UNIX password:
Retype new UNIX password:
passwd:all authentication tokens updated successfully
root@localhost.cisco.com#
```



# password strong-policy

ユーザ名に対する強力なパスワード ポリシーをイネーブルにするには、**password strong-policy** コマンドを使用します。このオプションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**password strong-policy**

**no password strong-policy**

**デフォルト** このコマンドにデフォルト設定はありません。

**コマンド モード** コマンド モード

**使用上のガイドライン** 有効なユーザ名は、root と guest の 2 つだけです。

**例** 次に、パスワードを設定する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# password strong-policy
Strong password policy is enabled.
```

# patch

ソフトウェア パッチをダウンロードおよびインストールするには、**patch** コマンドを使用します。

```
patch ftp://user:passwd@host/full-path/filename
```

## 構文の説明

`ftp://user:passwd@host/full-path/filename` パッチをダウンロードするためのパスを設定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、パッチをダウンロードしてインストールする例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# patch
ftp://hostname/fullpath/c6nam-3.6-strong-cryptoK9-patch-1-0.bin

Proceeding with installation. Please do not interrupt.
If installation is interrupted, please try again.

Downloading c6nam-3.6-strong-cryptoK9-patch-1-0.bin. Please wait...
ftp://hostname/fullpath/c6nam-3.6-strong-cryptoK9-patch-1-0.bin (1K)
- [#####] 1K | 1886.33K/s
1891 bytes transferred in 0.00 sec (1569.00k/sec)

Verifying c6nam-3.6-strong-cryptoK9-patch-1-0.bin. Please wait...
Patch c6nam-3.6-strong-cryptoK9-patch-1-0.bin verified.

Applying /usr/local/nam/patch/workdir/c6nam-3.6-strong-cryptoK9-patch-1-0.bin. Please
wait...
##### [100%]
##### [100%]

Patch applied successfully.
root@localhost.cisco.com#
```

## 関連コマンド

[show patches](#)  
[show version](#)

# pid-sn

NAM 仮想ブレード製品ライセンスでノードをロックするために、WAE デバイスの製品 ID とシリアル番号を入力するには **pid-sn** コマンドを使用します。

**pid-sn** *PIDnnnn* *SNnnnn*

## 構文の説明

<i>PIDnnnn</i>	WAE デバイスの製品 ID を指定します。
<i>SNnnnn</i>	WAE デバイスのシリアル番号を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、NAM 仮想ブレード プラットフォームでのみ有効です。

## 例

次に、WAE デバイスの製品 ID とシリアル番号を入力する例を示します。

```
root@localhost# pid-sn WAE-674-K9 KXQCDHDR
root@localhost#
```

# ping

ネットワーク デバイスへの接続状態をチェックするには、**ping** コマンドを使用します。

**ping [-n | -v] [-c count] [-i wait] [-p pattern] [-s packetsize] hostname | IP address**

## 構文の説明

<b>-n</b>	(任意) ネットワーク アドレスを数字で表示します。
<b>-v</b>	(任意) 詳細な出力を指定します。
<b>-c count</b>	(任意) ECHO_REQUEST パケットのカウントを送信した後、 <b>ping</b> を停止します。
<b>-i wait</b>	(任意) パケットを送信する間隔を秒単位で指定します。
<b>-p pattern</b>	(任意) <b>ping</b> で送信されるパケットを充填するパッドバイトを指定します。送信するパケットを充填するために、最大 16 パッドバイトまで指定できます。
<b>-s packetsize</b>	(任意) 8 バイトの ICMP ヘッダー データを設定します。
<b>hostname</b>	ネットワーク デバイスのホスト名を <b>ping</b> に設定します。
<b>IP address</b>	ネットワーク デバイスの IP アドレスを <b>ping</b> に設定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンド モード

コマンド モード

## 例

次に、**ping** を使用してネットワーク デバイスの接続状態をチェックする例を示します。

```
root@localhost# ping -n -v ralph 100.20.19.23
root@localhost#
```

# preferences

プリファレンス サブコマンド モードを開始し、画面における情報の表示方法を設定するには、**preferences** コマンドを使用します。

## preferences

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 使用上のガイドライン

プリファレンス サブコマンド モードを開始すると、次のコマンドを使用できます。

- **cancel** : 変更を廃棄し、サブコマンド モードを終了します。
- **csv-export all | current-screen** : カンマ区切り形式エクスポート モニタ データ オプションを設定します。
- **data-displayed bits | bytes** : ビットまたはバイトでのデータの表示方法を指定します。
- **entries-per-screen 1-100** : (任意) 表形式の画面に表示する行数を設定します。デフォルトは 15 です。
- **exit** : 変更を保存し、サブコマンド モードを終了します。 **exit** コマンドを参照してください。
- **format-large-number enable | disable** : GUI カウンタを K (キロ)、M (メガ)、または G (ギガ) という大きい数字で表示します。
- **graph-bars 1-15** : (任意) 表示されるグラフのバーの数を設定します。デフォルトは 10 です。
- **help** : ヘルプを表示します。 **help** コマンドを参照してください。
- **number-notation commas-dot | dots-comma | spaces-comma** : 数字の表記をカンマ、ドットなどに設定します。たとえば、1,000 または 1.000 または 300, 10 のようになります。
- **refresh-interval 15-3600** : (任意) 画面のリフレッシュ間隔を秒単位で設定します。デフォルトは 60 です。
- **resolve-hostname enable | disable** : (任意) ホスト名の解決処理をイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトは **enable** です。

### 例

次に、画面表示のプリファレンスを設定する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# preferences
Entering into subcommand mode for this command.
Type 'exit' to come out of this mode.
Type 'cancel' to discard changes and to come out of this mode.
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# entries-per-screen 15
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# refresh-interval 60
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# graph-bars 10
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# hostname-resolution disable
```

```
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# data-displayed bytes
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# format-large-number enable
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# number-notation comma-dot
root@localhost.cisco.com(sub-preferences)# exit
NAM web interface preferences updated successfully.data
```

次に、設定されたプリファレンスを表示する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# show preferences
Entries per screen: 15
Refresh interval: 60 secs
Number of graph bars: 10
Hostname resolution: Disabled
Data displayed in: Bytes
Format large number: No
Number notation: Commas-dot
root@localhost.cisco.com#
```

---

**関連コマンド**[show preferences](#)

# protocol esp-null-heuristic

NAM による ESP-NULL プロトコルのヒューリスティックな解析をイネーブルまたはディセーブルにするには、**protocol esp-null-heuristic** コマンドを使用します。

NAM による ESP-NULL プロトコルのヒューリスティックな解析をイネーブルにするには、次のコマンドを使用します。

## **protocol esp-null-heuristic enable**

NAM による ESP-NULL プロトコルのヒューリスティックな解析をディセーブルにするには、次のコマンドを使用します。

## **no protocol esp-null-heuristic enable**

---

### 構文の説明

このコマンドは、ESP-NULL パケットのヒューリスティックな解析をイネーブルまたはディセーブルにします。

---

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

### コマンドモード

コマンドモード

---

### 例

次に、ヒューリスティックな解析をイネーブルにする例を示します。

```
root@localhost# protocol esp-null-heuristic enable  
  
root@localhost#
```

次に、ヒューリスティックな解析をディセーブルにする例を示します。

```
root@localhost# no protocol esp-null-heuristic enable  
root@localhost#
```

# reboot

NAM をシャットダウンし、再起動するには、**reboot** コマンドを使用します。

## reboot

---

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

---

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

### コマンドモード

コマンドモード

---

### 例

次に、NAM をリブートする例を示します。

```
root@localhost# reboot
Reboot the NAM? (Y/N) [N]:
root@localhost#
```



# reboot -helper

ヘルパー イメージをリブートするには、**reboot -helper** コマンドを使用します。

## reboot -helper

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 例

次に、ヘルパー イメージをリブートする例を示します。

```
root@localhost# reboot -helper
Reboot the NAM? (Y/N) [N]:
root@localhost#
```

# reboot - golden

ゴールデン ヘルパー イメージ (NAM-3) をリブートするには、**reboot -golden** コマンドを使用します。

## reboot -golden

---

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

---

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

### コマンドモード

コマンド モード

---

### 例

次に、ヘルパー イメージをリブートする例を示します。

```
root@localhost# reboot -golden  
Reboot the NAM? (Y/N) [N]:  
root@localhost#
```

# remote-storage

---

## 関連コマンド

[remote-storage fcoe](#)

[remote-storage iscsi](#)

[remote-storage sas](#)

# remote-storage fcoe

キャプチャ データの FCoE リモート ストレージ ターゲットを一覧表示するか、またはフォーマットするには、**remote-storage fcoe** コマンドを使用します。

## remote-storage fcoe

### 構文の説明

*name* 取り外す FCoE リモート ストレージの名前を指定します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 使用上のガイドライン

これらのコマンドは NAM-3 でのみサポートされます。

コマンドを入力すると、次の機能を使用できます。

- **format** : 1 つ以上の FCoE ストレージ ターゲットをフォーマットします。
- **fsck** : FCoE ストレージ ターゲットで FS チェックを実行します (数分かかる場合があります)。
- **label** : FCoE ストレージ ターゲットにラベルを付けます。
- **list** : すべての FCoE ストレージ ターゲットを一覧表示します。
- **local-pwwn** : FCoE ローカル ポート WWN を表示します。ストレージ LUN に NAM ローカル ID をマッピングするには、ストレージ ベンダーの Web インターフェイスを使用します。
- **mount** : 論理的に接続が切断された FCoE ストレージ ターゲットを再接続します。connect コマンドに置き換えます。
- **refresh** : FCoE サービスを更新します。
- **sfp-info** : SFP およびモジュール EEPROM からの重要な情報 (タイプ、ベンダー、部品番号、シリアル番号、データ コードなど) を表示します。
- **unmount** : 論理的に FCoE ストレージ ターゲットの接続を切断します (このため、安全に取り外せません)。disconnect コマンドに置き換えます。

### 例

次に、FCoE データをキャプチャするためにリモート ストレージを設定する例を示します。

```
root@hostname.cisco.com# remote-storage fcoe
format                - format one or more FCoE storage targets
fsck                  - run FS check on a FCoE storage target (may take several
minutes)
label                 - label a FCoE storage target
list                  - list all FCoE storage targets
local-pwwn            - show local FCoE Port WWN
mount                 - re-mount a FCoE storage target
refresh               - refresh the FCoE service
sfp-info              - display SFP+ EEPROM contents
unmount               - unmount a FCoE storage target (safely remove)
root@hostname.cisco.com#
```

# remote-storage iscsi

キャプチャ データの iSCSI リモートストレージターゲットを一覧表示するか、またはフォーマットするには、**remote-storage iscsi** コマンドを使用します。

## remote-storage iscsi

### 構文の説明

*name* 取り外す iSCSI リモートストレージの名前を指定します。



(注)

このコマンドは、NAM WAAS 仮想ブレードではサポートされません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 使用上のガイドライン

コマンドを入力すると、次の機能を使用できます。

- **format** : iSCSI ストレージターゲットをフォーマットします。
- **fsck** : iSCSI ストレージターゲットの FS チェックを実行します (数分かかる場合があります)。
- **label** : iSCSI ストレージターゲットにラベルを付けます。
- **list** : すべての iSCSI ストレージターゲットを一覧表示します。
- **local-iqn** : ローカル iSCSI 修飾名を表示します。ストレージ LUN に NAM ローカル ID をマッピングするには、ストレージベンダーの **Web** インターフェイスを使用します。
- **login** : iSCSI セッションにログインします。
- **logout** : iSCSI セッションからログアウトします。
- **mount** : iSCSI ストレージターゲットをリマウントします。
- **unmount** : iSCSI ストレージターゲットをアンマウントします (このため、安全に取り外せません)。

### 例

次に、iSCSI データをキャプチャするためにリモートストレージを設定する例を示します。

```
root@hostname.cisco.com# remote-storage iscsi
format                - format a iSCSI storage target
fsck                  - run FS check on an iSCSI storage target (may take several
minutes)
label                 - label an iSCSI storage target
list                  - list all iSCSI storage targets
local-iqn             - show local iSCSI Qualified Name
login                 - Login to an iSCSI session
logout                - Logout from an iSCSI session
mount                 - re-mount an iSCSI storage target
unmount               - unmount an iSCSI storage target (safely remove)
root@hostname.cisco.com#
```

次に、**remote-storage iscsi local-iqn** の出力例を示します。

```
root@hostname.cisco.com# remote-storage iscsi local-iqn
Local iSCSI Qualified Name: iqn.1987-05.com.cisco:WS-SVC-NAM3-6G-K9.00:19:55:07:14:FA
```

次に、**remote-storage iscsi list** の出力例を示します。最後に iSCSI セッションのリストが含まれます。

```
root@hostname.cisco.com# remote-storage iscsi list
Storage ID: 7
Label:
Status: Ready
Protocol: ISCSI
Target IP: 172.20.98.182
Target IQN: iqn.1999-02.com.nexasan:p0:satabeast2:029c65ec
Type: LUN
Model: NEXSAN SATABeast2
LUN: 2
Capacity: 1.82TB
Available: 1.73TB

Active iSCSI Sessions:
tcp: [2] 172.20.98.182:3260,1 iqn.1999-02.com.nexasan:p0:satabeast2:029c65ec
root@hostname.cisco.com#
```

---

## 関連コマンド

[show remote-storage](#)

# remote-storage sas

キャプチャデータの SAS リモートストレージターゲットを一覧表示するか、またはフォーマットするには、**remote-storage sas** コマンドを使用します。

## remote-storage sas

### 構文の説明

*name* 取り外す SAS リモートストレージの名前を指定します。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 使用上のガイドライン

これらのコマンドは NAM-3 でのみサポートされます。

コマンドを入力すると、次の機能を使用できます。

- **format** : 1 つ以上の SAS ストレージターゲットをフォーマットします。
- **fsck** : SAS ストレージターゲットの FS チェックを実行します (数分かかる場合があります)。
- **label** : SAS ストレージターゲットにラベルを付けます。
- **list** : すべての SA ストレージターゲットを一覧表示します。
- **local-address** : ローカル SAS アドレスを表示します。ストレージ LUN に NAM ローカル ID をマッピングするには、ストレージベンダーの Web インターフェイスを使用します。
- **mount** : 論理的に接続が切断された SAS ストレージターゲットを再接続します。connect コマンドに置き換えます。
- **unmount** : SAS ストレージターゲットの接続を切断します (このため、安全に取り外せます)。disconnect コマンドに置き換えます。

### 例

次に、SAS データをキャプチャするためにリモートストレージを設定する例を示します。

```
root@hostname.cisco.com# remote-storage sas
fsck                - run FS check on a SAS storage target (may take several
minutes)
format              - format one or more SAS storage targets
label               - label a SAS storage target
list                - list all SAS storage targets
local-address       - show local SAS Address
mount               - re-mount a SAS storage target
unmount             - unmount a SAS storage target (safely remove)
```

# rmwebusers

ローカル Web ユーザ データベースからすべての Web ユーザを削除するには、**rmwebusers** コマンドを使用します。

## rmwebusers

---

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

---

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

### コマンドモード

コマンドモード

---

### 例

次に、ローカル Web ユーザ データベースから Web ユーザを削除する例を示します。

```
root@localhost.cisco.com# rmwebusers
```

```
WARNING:Doing this will stop the web server and remove  
all locally defined web users from web user database.
```

```
Are you sure you want to continue (y/n) [n]? y
```

```
Disabling HTTP server...  
Successfully disabled HTTP server.
```

```
All locally defined web users have been  
removed from web user database.  
root@localhost.cisco.com#
```

---

### 関連コマンド

[show web-user](#)



# show access-log

Web アクセス ログを表示するには、**show access-log** コマンドを使用します。

## show access-log

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 例

次に、Web アクセス ログを表示する例を示します。

```
Root@localhost# show access-log
11 Mar 2003, 12:23:38 152.20.27.182 - Access denied (no login session)
/error.php
11 Mar 2003, 12:23:39 152.20.27.182 - Access denied (no login session)
/error.php
11 Mar 2003, 12:23:39 152.20.27.182 - Access denied (no login session)
/error.php
11 Mar 2003, 12:23:39 152.20.27.182 - Access denied (no login session)
/error.php
```

# show application app-id

すべてのアプリケーションを表示するには、**show application app-id** コマンドを使用します。

## show application app-id

---

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

### コマンドモード

コマンドモード

---

### 例

次に、すべてのアプリケーションを表示する例を示します。

```
root@NAM.cisco.com# show application app-id
sample-13:1 (16777217) icmp
sample-13:2 (16777218) igmp
sample-13:4 (16777220) ip
sample-13:6 (16777222) tcp
sample-13:8 (16777224) egp
```

---

### 関連コマンド

[application](#)

# show application eng-id

エンジン ID ごとのアプリケーション情報を表示するには、**show application eng-id** コマンドを使用します。

## show application eng-id

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 例

次に、エンジン ID ごとのアプリケーション情報を表示する例を示します。

```
root@NAM.cisco.com# show application eng-id 1
sample-13:1 (16777217) icmp
sample-13:2 (16777218) igmp
sample-13:4 (16777220) ip
sample-13:6 (16777222) tcp
sample-13:8 (16777224) egp
```

### 関連コマンド

[application](#)

# show application group

アプリケーション グループを表示するには、**show application group** コマンドを使用します。

**show application group** [*group-name*]

## 構文の説明

*group-name* (任意) アプリケーション グループ名を指定します。

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

## コマンドモード

コマンドモード

## 例

次に、アプリケーション グループを表示する例を示します。

```
root@namlab-kom10.cisco.com# show application group
Application Group: File-Transfer
Number of Protocols: 5
  - ftp
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.21.4.0.1.0.0
  - ftp-data
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.20.4.0.1.0.0
  - ftps
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.3.222.4.0.1.0.0
  - ftps-data
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.3.221.4.0.1.0.0
  - tftp
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.0.69.4.0.1.0.2

Application Group: Peer-to-Peer
Number of Protocols: 12
  - gnutella (6346)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.24.202.4.0.1.0.0
  - gnutella (6347)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.24.203.4.0.1.0.0
  - fasttrack (udp)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.4.190.4.0.1.0.0
  - fasttrack (tcp)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.4.190.4.0.1.0.0
  - winmx (udp)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.24.113.4.0.1.0.0
  - winmx (tcp)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.26.43.4.0.1.0.0
  - edonkey (udp)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.18.57.4.0.1.0.0
  - edonkey (tcp)
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.18.53.4.0.1.0.0
  - hotline
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.21.124.4.0.1.0.0
  - soulseek
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.8.186.4.0.1.0.0
  - directconnect
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.1.155.4.0.1.0.0
  - bittorrent
    16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.26.225.4.0.1.0.0
```

```
Application Group: Web
  Number of Protocols: 2
    - http
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.80.4.0.1.0.0
    - https
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.1.187.4.0.1.0.0

Application Group: Database
  Number of Protocols: 9
    - sql*net
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.66.4.0.1.0.0
    - sqlserv(udp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.0.118.4.0.1.0.0
    - sqlserv(tcp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.118.4.0.1.0.0
    - ms-sql-mon(udp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.5.154.4.0.1.0.0
    - ms-sql-mon(tcp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.5.154.4.0.1.0.0
    - ms-sql-ser(udp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.5.153.4.0.1.0.0
    - ms-sql-ser(tcp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.5.153.4.0.1.0.0
    - oracle-server(udp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.5.245.4.0.1.0.0
    - oracle-server(tcp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.5.245.4.0.1.0.0

Application Group: email
  Number of Protocols: 7
    - smtp
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.25.4.0.1.0.0
    - smtps
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.1.209.4.0.1.0.0
    - pop3(udp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.0.110.4.0.1.0.0
    - pop3(tcp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.110.4.0.1.0.0
    - pop3s
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.3.227.4.0.1.0.0
    - imap2
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.0.143.4.0.1.0.0
    - imaps
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.3.225.4.0.1.0.0

Application Group: Multi-Media
  Number of Protocols: 9
    - h225
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.6.184.4.0.1.0.0
    - h245
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.6.182.4.0.1.0.0
    - h323-gatekeeper
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.6.183.4.0.1.0.0
    - rtp
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.125.0.4.0.1.0.0
    - rtcp
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.125.1.4.0.1.0.0
    - sip(udp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.19.196.4.0.1.0.0
    - sip(tcp)
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.19.196.4.0.1.0.0
    - mgcp
      16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.17.0.0.9.123.4.0.1.0.0
```

■ show application group

```
- sccp  
16.1.0.0.1.0.0.8.0.0.0.0.6.0.0.7.208.4.0.1.0.0
```

関連コマンド [application](#)

# show audit-trail

監査証跡の設定を表示するには、**show audit-trail** コマンドを使用します。

## show audit-trail

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 例

次に、監査証跡の設定を表示する例を示します。

```
root@hostname.cisco.com# show audit-trail  
Audit trail is enabled.  
root@hostname.cisco.com#
```

### 関連コマンド

[audit-trail enable](#)

# show autocreate-data-source

自動作成されたデータソースを表示するには、**show autocreate-data-source** コマンドを使用します。

## show autocreate-data-source

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンド モード

### 例

次に、データソースの自動作成機能がイネーブルになっている例を示します。

```
root@NAM.cisco.com# show autocreate-data-source

NDE autocreation      : ENABLED
WAAS autocreation     : ENABLED
ERSPAN autocreation   : ENABLED

Autocreate WAAS Client data source      : ENABLED
Autocreate WAAS Client WAN data source  : DISABLED
Autocreate WAAS Server WAN data source  : DISABLED
Autocreate WAAS Server data source      : DISABLED
Autocreate WAAS Passthru data source    : DISABLED

Enable Passthru export on autocreated WAAS device : NO

root@NAM.cisco.com#
```



# show cdb

CDB ファイルに関する情報を表示するには、**show cdb** コマンドを使用します。

**show cdb** [*filename*]

---

## 構文の説明

---

*filename* CDB ファイル名を指定します。

---

---

## デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

---

## コマンドモード

コマンドモード

---

## 例

次に CDB ファイルに関する情報を表示する例を示します。

```
root@NAM.cisco.com# show cdb
<FILENAME> - Filename to examine (e.g. /storage/cdb/Hosts.cdb)
```

# show cdp settings

現在の Cisco Discovery Protocol (CDP) の設定を表示するには、**show cdp settings** コマンドを使用します。

## show cdp settings



(注)

このコマンドは、NAM-1 または NAM-2 デバイス、または NAM 仮想ブレードではサポートされません。

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、NME-NAM-80S および NME-NAM-120S デバイス、および Cisco NAM 2200 シリーズ アプライアンスでのみサポートされます。

### 例

次に、現在の CDP の設定を表示する例を示します。

```
root@nam# show cdp settings
CDP is disabled
  Message Interval:   60
  Message Hold Time: 180

root@nam#
```

### 関連コマンド

[autocreate-data-source](#)  
[cdp hold-time](#)  
[cdp interval](#)

# show certificate

インストールされた証明書を表示するには、**show certificate** コマンドを使用します。

## show certificate

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンドモード

### 例

次に、証明書情報を表示する例を示します。

```
Root@localhost# show certificate
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDGzCCAuygAwIBAgIBADANBgkqhkiG9w0BAQQFADCBjjELMAkGA1UEBhMCVVMx
CzAJBgNVBAGTAkNBMQswCQYDVQQHEwJTSjEhMBkGA1UEChMSQ21zY28gU31zdGVt
cywgSW5jMSswKQYDVQQLLEyJDYXRhbH1zdCA2MDAwIE5BTSBUZXN0IEN1cnRpZmlj
YXR1MRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBTeXN0ZW1zLCBjbMwHhcNMDExMTI0MDIw
WhcNMDExMTI0MDIwWjCBjjELMAkGA1UEBhMCVVMxMDEwMDIwWjCBjjELMAkGA1UEBhMCVVMx
CzAJBgNVBAGTAkNBMQswCQYDVQQHEwJTSjEhMBkGA1UEChMSQ21zY28gU31zdGVt
cywgSW5jMSswKQYDVQQLLEyJDYXRhbH1zdCA2MDAwIE5BTSBUZXN0IEN1cnRpZmlj
YXR1MRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBTeXN0ZW1zLCBjbMwGZ8wDQYJKoZIhvcNAQEBBQADgY0AMIGJAoGBAMfd
NQJunHkjduRGMc7B978Bgh4x1EixRCPQ9K74PNzmXbZ1IayRUXvLHA3xCM8GamFt
SlLgjj05R3q0cHWnUrluknHeI1UfZMQMiL0IqL255JxX6NbvCuZGpTxNMKywDXDc3
VevqmPezWrHAFxx3hoXtgTnj6j6BMxyOkbYDwAFXAgMBAAGjge4wgeswHQYDVRO0
BBYEFPCoN6ndQG9nCMgnzP+Y3VxOSP3MIG7BgNVHSMGgbMwgbCAFPNCn6ndQG9
nCMgnzP+Y3VxOSP3oYGUPIGRMIGOMQswCQYDVQQGEwJVUzELMAkGA1UECBMCQ0Ex
CzAJBgNVBACeTA1NkMRswGQYDVQQKExJDaXNjbyBTeXN0ZW1zLCBjbMxKzApBgNV
BAStIkNhdGFseXN0IDYwMDAgTkFNIFRlc3QgQ2VydG1maWNhdGUxGzAZBgNVBAMT
EkNpc2NvIFN5c3R1bXMsIEluY4IBADAMBGNVHRMEBTADAQH/MA0GCSqGSIb3DQEB
BAUAA4GBAD95psLs1tneBsIuUWQvIdV6D7QYBfewtDzNW101FvgDZBQdIu7QeRtL
tjMNYGDUIG7tz7/9iZyA90rfrkM410qJrJysoKBZgMzTg6ilpaIzPnoJnN4DYj5C
qNGuOM00KqtpqCFMKq87UXUuvTgc3hhQKSY5LKOXhJyhtCupJ669
-----END CERTIFICATE-----
```

### 関連コマンド

[show certificate-request](#)

# show certificate-request

証明書署名要求を表示するには、**show certificate-request** コマンドを使用します。

## show certificate-request

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

### コマンドモード

コマンド モード

### 例

次に、証明書署名要求を表示する例を示します。

```
Root@localhost# show certificate-request
```

### 関連コマンド

[show certificate](#)